

日本数値流体力学会将来構想に関するアンケート集計結果

副会長（将来構想検討ワーキンググループ代表者）
久保田弘敏

日本数値流体力学会は、1992年の設立以来、我が国の数値流体力学分野の発展および関連の国際活動に多大の貢献を果たして来ました。一方、「日本数値流体力学会誌」第9巻第2号で笠木伸英第9期会長が指摘されているように、会員の構成、財政基盤、運営方法等にいくつかの課題もあります。これらの課題の解決を図るための努力が、笠木会長のもとで進められております。

それを更に具体化するために、今期理事会では将来構想の検討を行うこととし、そのためのワーキンググループ（以下WG）を組織しました。WGでは、学会の現状と将来のあり方を多角的に議論し、上記課題の解決を図るための具体案として、（社）日本流体力学会との融合を提案しました。このWG提案は2001年7月9日の日本数値流体力学会理事会で前向きに討議され、さらにアンケートによって全会員の意見を伺うということにいたしました。

以上の趣旨を会員の皆様に説明してご意見を伺うアンケート（添付資料1）は同年9月から10月にかけて郵便にて発送、回収されました。ここに、アンケートの集計結果の概要をご報告する次第です。

WGは、下記の集計結果を慎重に検討した結果、去る10月10日の理事会にて、アンケートで提案した方針を最終答申し、理事会で承認を得る運びとなりました。理事会では、今後評議員の方々の意見をさらに聴取しつつ、本年12月19日の学会総会での提案内容を詰めていく予定です。

アンケートの集計結果概要

10月29日までの回収結果

(1) アンケート発送数431, 回答数173 (発送数の40%)

内訳：「(社)日本流体力学会との融合に賛成」	148
「(社)日本流体力学会との融合に反対」	14
「どちらでもよい」	10
記載なし	1

それぞれの内訳

・「(社)日本流体力学会との融合に賛成」のうち	
ワーキンググループ案でよい	130
具体的な条件について更に検討する必要あり	18
・「(社)日本流体力学会との融合に反対」のうち	
このまま「日本数値流体力学会」を維持する	8
他の学会との融合を検討する	6

(2) 上記回答結果において、賛成とされた方々の意見では「ワーキンググループ案でよい」というものが圧倒的に多く(回収数の約75%)、この案が支持されていると思われる。

(3) 具体的な意見も多くいただいた。

代表的な意見は、

- ・ 流体力学会との連絡を密にし、融合によって両者が発展できるようにすべきである
- ・ 数値流体力学会が持っていた良さを残すべきである
- ・ 両者の学会誌を統一するか、従来通りとするかはよく検討するのが望ましい
- ・ 両者のシンポジウムを統一するか、2本立てとするかもよく検討したほうがよい
- ・ 会員サービスが悪くならないようにしてほしい

等である。

以上

日本数値流体力学会
会員各位

日本数値流体力学会将来構想についてのお伺い

2001年9月5日
日本数値流体力学会
将来構想ワーキンググループ
(代表者 副会長 久保田弘敏)

日本数値流体力学会は、科学研究費重点領域研究の成果発表のための「数値流体力学シンポジウム」が母体となり、我が国の数値流体力学分野の発展のために、1992年に設立されました。

本会は、毎年12月に「数値流体力学シンポジウム」を主催し、年4回の和文の「日本数値流体力学会誌」および英文の「Computational Fluid Dynamics Journal (CFD Journal)」を発行し、また、国際数値流体力学シンポジウム (ISCFD) およびアジア数値流体力学会議 (ACFD) の主要共催団体として、我が国の数値流体力学をリードし、関連の国際活動にも貢献してきました。本会は、2001年7月現在、512名(内訳: 正会員466名、学生会員43名、国外会員1名、名誉会員2名、賛助会員3名)の会員から成り、会員数は決して多くありませんが、分野横断的な性格を持っていることが特徴です。「数値流体力学シンポジウム」には会員以外の参加者も多く、本会がこの分野に大きな役割を果たしていることが分かります。また、英文学会誌は国際的に非常に高い評価を得ています。

一方、「日本数値流体力学会誌」第9巻2号で、笠木第9期会長が述べておられるように、学会として、さらに社会に貢献してゆくためには、次のようないくつかの課題があります。

- (1) 産業界の会員が極めて少ないので、今後の学会活動を充実させるためには産業界からの参加が必要である。
- (2) 会員数が増加せず、会員の固定化、マンネリ化が危惧され、発足時の熱気ある雰囲気やや薄らいでいるので、その解決が望まれる。
- (3) 会員数が少なく、法人格を持たず、財政基盤が脆弱であるので、学会の効率的運営が必要である。
- (4) 全てボランティアで運営しているので、担当者の負担が大きい。特に、事務局、学会誌編集の負担が大きいので、これを解消する必要がある。

このような課題を解決するための努力が、今期、笠木会長のもとで進められており、既に和文誌はウェブ化(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscfd/j-jscfd/indexj.html>)されているところです。

以上のような本学会の現状や社会の要請を勘案し、今期理事会では、本学会の将来構想を検討するためのワーキンググループを組織しました。ワーキンググループでは、種々の検討を行った結果、次のような案を作りました。これは、規模の似た同分野の学会と融合することにより、学会事務の効率化を図るとともに、複数学会活動における会員の財政的・業務的負担の軽減、サービスの向上を期するもので、本学会の良さを失わないようにしつ

つ、我が国の流体力学の進展に寄与することを指向しています。

[ワーキンググループ案]

1. 本学会の良さを生かしつつ他学会と融合する。ワーキンググループで、対象となる学会について、いくつか検討した結果、「社団法人 日本流体力学会」が適当であるとした。(社)日本流体力学会は、会員数は本学会の2倍程度、理学系から工学系までの分野横断的性格を有し、本学会とほぼ似ている。流体力学に関する基礎・応用分野について理論的、実験的、数値的研究を幅広く扱っているため、数値的手法に特化した本学会が合流することは、両学会員にとってメリットが大きいであろう。

<参考> 日本数値流体力学会と(社)日本流体力学会の比較

項目	日本数値流体力学会	(社)日本流体力学会
法人格	なし	あり
会員数	512(2001年7月)	1,211(2000年12月)
事業規模(年間)	837万円	4,024万円
会誌	・和文誌「日本数値流体力学会誌」、年4回(ウェブ) ・英文誌「CFD Journal」、 「CFD Journal」、年4回	・和文誌「ながれ」、年6回 ・英文誌「Fluid Dynamics Research」、年4回
講演会	・数値流体力学シンポジウム(12月)	・日本流体力学会年会(7月)
講習会	あり	あり
学会賞	なし	あり
学会の特徴	・前記	・分野横断的 ・経常の事務局あり ・英文誌に科研費補助

なお、現時点で、両学会に重複して加入している会員数は約129名である。

2. 学会名称は「(社)日本流体力学会」とし、その中に「数値流体力学部門」を設け、数値流体力学分野のアイデンティティを確保する。日本流体力学会の新運営組織の中に、部門の意見が十分反映される体制を確保する。国際数値流体力学会創立の機運もあるが、それにはこの部門が対応する。
3. 和文誌は、「数値流体力学会誌」(ウェブ)と「ながれ」の2本立てとする。
4. 英文誌「CFD Journal」は、独立採算によるものとし、エディター制によって高い水準の国際論文集を維持し、発行自体は学会とは切り離す。ただし、論文投稿などにおいて協力関係は継続して、会員にとって研究成果を公表する途の一つと位置づける。
5. 講演会は、7月に「流体力学会年会」を、12月に「数値流体力学シンポジウム」を開催し、前者は流体力学の現象に重点をおき、後者は数値解析の手法とその応用等に重点をおく。
6. 現在の本会の活動(例えば「有限要素法研究会」等)は「数値流体力学部門」の下で存続する。
7. 事務局は、現在の(社)日本流体力学会事務局に統合する。
8. 会費は、現在の(社)日本流体力学会会費に準じる。正会員会費は年間8,000円

で、現在の本会の会費年間5,000円より高くなるが、その分受けるサービスは多くなる。会費は郵便局自動振り込みとなる(現在の(社)日本流体力学会方式)。

以上の案について、会員各位のご意見をお伺いしたいと存じます。ご多忙のところ恐れいりますが、別紙のアンケートにお答え下さい。余白が足りない場合は別の用紙を添付して下さい。

回答は、日本数値流体力学会事務局

(c/o 矢部 孝教授

東京工業大学大学院理工学研究科

〒152-8552 目黒区大岡山 2-12-1

TEL (FAX): 03-5734-2860

e-mail: <mailto:jscfd@mech.titech.ac.jp>)

まで同封の返信用封筒を用いて郵便でお寄せ下さい。

締切を

10月5日(金)

といたします。回答は記名でも無記名でも良いものとします。

この結果を、10月の理事会で検討の上、12月総会で将来構想の提案をしたいと考えております。

日本数値流体力学会将来構想についてのアンケート

御所属 _____
お名前 _____

(1) (社)流体力学会との融合について(いずれかの 内に✓印をご記入下さい)

- 賛成
- 反対
- どちらでもよい

(2) 上記で「賛成」と答えられた方にお伺いします。(いずれかの 内に✓印をご記入下さい)

- ワーキンググループ案でよい
- 具体的な条件について、さらに検討する必要あり
(検討すべき項目をご指示下さい:

)

(3) 上記で「反対」と答えられた方にお伺いします。(いずれかの 内に✓印をご記入下さい)

- このまま「日本数値流体力学会」を維持する
- 他の学会との融合を検討する
(具体的な案をご指示下さい:

)

- その他
(具体的なご意見をお書き下さい:

)

(4) その他、全般的なご意見があれば、お書き下さい。
(

)

以上です。ご協力ありがとうございました。